



1964年10月10日の東京は「世界中の青空を東京に集めたような・・・」と形容されるほどの晴天であったといわれています。東京オリンピックの開会式です。これと同じように、先日、10月2日は雲ひとつない秋晴れにめぐまれ、これ以上ないと思われるほどの晴天が広がりました。

今年の体育大会は、新型コロナウイルス感染予防のため、規模を大幅に縮小して開催されました。練習時間もかなり短縮されましたが、それでもみなさんはいっしょけんめい取り組み、完成度の高い体育大会であったと思います。コロナは社会にさまざまな影響を与えてきましたが、いままでの生活や慣例を見なおすチャンスになったといえるのではないのでしょうか。



さて、体育大会の日の朝はほどよい緊張感と「がんばるぞ」という闘志、そして少しばかりの不安が入り交じった、ふしぎな朝の雰囲気です。こんなにも青い空があったのかと思うくらいの、雲ひとつないすみきった青空がさらに気持ちを高ぶらせてくれます。

ピストルの音とともに一斉に走り出す選手。学年ごとにおこなわれる各レースは、それぞれクラスの威信をかけて走るクラス対抗です。そして、その威厳と信頼を集約するものがクラス対抗リレーです。このレースは個人種目よりも得点が高く、一発逆転もねえることからどのクラスも精鋭を集めてきます。真剣勝負は見ていて気持ちのよいものです。もちろん競走ですから勝ち負けは当然ありますが、その結果以上にみなさんの一生懸命さが響いてきて、勇気と感動をたくさんもらった気がしました。

「表彰台に上られるか上がれないか、それは天と地ほどの差がある。」以前、あなたはそう話していました。でも、ほんとうに見たかったのは、表彰台の上のあなたではないのです。勝ったことのない強敵を、ベストタイムという自分の限界を、必ず打ち破れるものだと、本気で信じ込んで挑む。その勇気みなぎる姿にこそ、価値があると思うのです。結局のところ、人生はレースの勝ち負けで決まるものではないのですから・・・

徒競走はいつもビリ。どんなにがんばっても前の人にどんどんはなされる。こんなの、なければいいと思っていた・・・ところがあるとき、足を引きずりながら一番最後を走っていたら、前を走っている人よりも大きな声援と拍手がおくられてきた。なぜ、足のおそいわたしにこんなに大きな声援と拍手をくれるのだろうか・・・「そうか、競技は足が速い人だけのものじゃない。足がおそくてもいっしょけんめいがんばっているから声援や拍手をしてくれているのだ」ということに気がついたのです。

それぞれに、みなさんの汗が輝いて見えた秋の一日でした。

	優 勝	2 位	3 位	4 位
ク ラ ス	4 組	3 組	2 組	1 組
得 点	1 6 8 点	1 6 3 点	1 5 8 点	1 5 5 点